

長い根、時計のなった木を描き、洞察力の不足、攻撃的態度、常に時刻を気にしていることを示唆している。

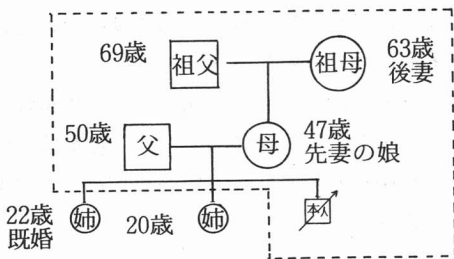
問題性予測検査 (DAT)

検証尺度	0	①	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
危険性の段階	C (6歳以下)					B (6歳以上)			A (6歳以上)						
パーセンタイル	1	10	20	30	40	50	60	70	80	85	90	95	99		
適応	F. 家庭不適応	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
	S. 学校不適応	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
	E. 自己不適応	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
	H. 対人不適応	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
傾向	P1. 性格1 (意志的)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
	P2. 性格2 (感情的)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
	P3. 性格3 (思的)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
	N. 規範逸脱性	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
問題傾向	ASS. 反社会的問題傾向	男	20	30	40	50	60	70	80	81	90	98	99	110	130
	女	20	30	40	50	60	70	75	80	90	94	110	130		
	ASS得点 (89)	タイプ (MN)													

本人は、強い家庭不適応を示し、自分の家庭に不満をもち、親とうまく合わずしっくりしないと思っている。規範逸脱傾向が強い。

— 社会的次元 —

● 家族構成



● 家族関係

複雑な家族構成にあり、厳格な祖父が何につけ実権を握ってきた。父は、不規則な勤務の会社員で、家庭ではたいへん口数が少なく存在がうすい。母は、農業のかたわらパートタイムの勤めをしている。

父と祖父母、母と祖母、本人と父母・祖母とは、あまり会話のない関係である。

● 家族成員の性格と養育態度

祖父母は、死別や離婚の不幸が続き、両親が働きに出ていたため、孫の養育にあたる。その態度は、溺愛的で一貫性が欠如しがちであった。本人は、幼児期に親に抱かれることをいやがり、「父母に甘えた体験がない。」という。

父は、自分の感情や考えをほとんど表わさない。しかも、父親としての自覚がうすく、社会規範などを子供たちに十分に教えこんでいない。母は、周囲へは必要以上に気をつかい、自己主張を抑えるが、母親としてのやさしさに欠ける。

本人の養育について、両親の不一致が強い。父親は、形式的で理づめで接しやすく、子供たちの気持ちを理解しようとしめない。母親は、何か問題が発生すると本人へは口うるさく注意するなど、過干渉、厳格、拒否的態度をとりながら、盲従、過不安、矛盾など混乱した対応がみられる。それが、本人の口うるさい母への不信、反抗を生みだしている。

● 教育に対する関心

両親とも、教育に関しては関心が高く、姉2人と同様、いわゆる有名校へ進学させようとし、また、運動技能にもすぐれていたことから、長男である本人へ一身に期待を寄せてきた。

— 実存的次元 —

● 尊敬する人物はいない。生育の過程で、親や教師への不信を抱いてきている。しかし、将来は、「先生になりたい。」。高校は、いわゆる有名高校への進学を志望している。

5. 診断

幼少時からの両親への不信、家庭への不適応感などが、「いらいらして、おもしろくない」という心境を生み出し、深夜徘徊や集団を組んでの問題行動に走らせた。また、家庭・学校不適応で、